

常光寺々報

2021. 6

孟蘭盆会法要

七月十三日（火）

朝十時半～十二時

昼十三時半～十五時

鎌倉組 来恩寺住職

講師 橋本 正信 先生



先月の永代経法要は直前での中止の連絡で、残念なこととなってしまいました。ワクチンの接種が始まったとはいえ、まだまだ予断は許されませんが、孟蘭盆会法要の日はまん延防止等重点措置解除予定日の後であり、今回は無事にお勤めできることを願っています。

⌘ ⌘ ⌘ ⌘

ご講師の橋本先生は、先月の永代経法要にご出講をお願いいたしておりました茅ヶ崎のお寺の住職で、鎌倉組の組長をお勤めでもあります。先の寺報でもお知らせしたとおり、若い頃はハワイの開教使をお勤めになり、帰国後に一代でお寺を建立されたバイタリテイ溢れる先生です。娑婆は不安の只中ですが、仏さまの世界の安心をお聞かせいただきたいと思います。

久しぶりの法要です。
どうぞ、お参りください。



御仏飯と女子力

毎朝、お仏壇にお供えする御仏飯ですが、昔々この御仏飯は、今でいう女子力の秤はかりの一つであったという驚かれるでしょうか。



高く形よく綺麗に盛った御仏飯をこしらえるのには、器用さに目配り気配りが必要であり、真面目に手を抜かず、敬いの心をもって毎日繰り返す。それがいいお嫁さんを育てる。逆もしかり。いびつな形の、いい加減な御仏飯がお供えされているお仏壇を見て、ここのお嫁さんは目配りや気配りが出来ない人だ。お姑さんを敬う心もなさそうだといわれる。その為、年頃の娘は御仏飯のこしらえ方をみっちり習うことも嫁入り修行の一つ・・・と。

そんな時代もあったそうですが、時代は変わり、今ではそのように言われることも無くなりました。

今お寺の御仏飯は嫁のいない男子の私がこしらえています。トホホ・・・。

八月の旧盆法座は
今年は中止させていただきます。

朝と昼の二席のお勤めですが、同じテーマでご法話をしてください。ようお願いします。どちらにでもお参りください。空気循環のため、本堂は扉を開けて、換気をしています。お経本とお念珠をお持ちください。マスクの着用もお願いいたします。検温・消毒にご協力ください。

宇野行信師

考えてみますと、人生には必要なことと、大事なことがあるように思いますが、必要なことは、他人に教えられなくとも日常生活のなかで自然と学んで行きますが、人として学ばなければならぬ大事なことは、「前に生まれんもの」たちから伝えてもらうことをしないと、なかなか気づかぬものです。

例えば、食事のときに合掌していただく習慣がありました。今日ではあまり見かけることもなくなりました。現在では、栄養のある物を食べているという感覚になっているかもしれない。事実そうでありましょう。しかしほんの少し前の人たちは、食「物」ではなくて「いのち」をいただいていると受けとって合掌させていただいていたのです。だからお米、お魚、お肉、お野菜等と、「お」ということばをつけていたのであります。このように「いのち」をいただいていると受けと

っている人たちは、たとえ自らの働いたお金で食卓を飾ったとしても、合掌せずにはおれなかつたのであります。

このように人として学ばなければならぬ大事なことを、お仏壇を通して教わってきたのです。だから、そのことを学ぶことのできた人は、頭をさげたのではなく、お仏壇には理屈抜きに無条件で頭がさがったのであります。

ところでお仏壇と申せば、一般にはご本尊・阿弥陀如来(南無阿弥陀仏)を安置する浄土真宗のお仏壇と、位牌を安置するために設けられた他宗の位牌壇とが混同されているように思います。だから浄土真宗の門徒さんのなかにもお仏壇のご本尊は忘れられて、先祖を敬うという位牌壇と同じように考えて、先祖の居場所のように受けとられている方もおられるようです。

ご先祖はどうでもよいと申ししているのではないのです。ほんとうに先祖を大事に敬うというのは、どういう心がわかればよいのかを考えてみたいと思

っているのです。

卑近なことを申しますが、親が大事なのは、子供の私にいつも添うようにし、こちらの思いのままにしてくれるからでしょうか。もしそうでないときは、親を敬うことができないのでしょうか。それよりどんな親であろうと、この世に生み出してくれた親の心はどこにあつたのかということに出逢って、親が大事だということにふれてみたいと思いたいだけなのです。

先祖がどういふ生き方、死に方をしようとも、亡き人からお育てにあいましてということになれば、その亡き方をほんとうに尊く敬うことができる道があるということをお願いだけなのです。

私たちは浄土真宗の門徒として、御開山・親鸞聖人の本願念仏のみ教えを仰いできました。だから、人として学ばなければならぬ大事なことは、本願念仏の道、南無阿弥陀仏の道であつたのです。